

プログラム番号	06054
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 総合研究大学院大学 高エネルギー加速器科学研究科		
②学長名	小平 桂一		
③所在地	〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町上山口字間門1560		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学務課長	
	担当者氏名	伊東 陽子	e-mailアドレス kokusai@soken.ac.jp
	電話・FAX番号	046-858-1521 (電話), 046-858-1541 (FAX)	
⑤ホームページ URL	http://www.soken.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	90人 (うち、国費留学生 45人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	高エネルギー加速器科学国際大学院プログラム
②プログラムの形態	博士課程 (3年間)
③実施研究科・専攻	高エネルギー加速器科学研究科 ・ 素粒子原子核専攻
	(所在地) 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1
④連携大学・研究科・専攻名	高エネルギー加速器科学研究科・ 加速器科学専攻、物質構造科学専攻
⑤受入れ学生数	6人 (うち研究留学生優先配置人数: 2人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 206人 (うち専任: 204人、兼任: 2人、非常勤: 0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 高エネルギー加速器科学研究科長, 教授
	研究科長名 北澤 良久

【3. プログラムの内容】

○ 開設の趣旨

- ・ 国際標準の研究大学院大学として、博士後期課程の留学生教育を実施するとともに、世界各国の修了生を中心とした学術文化交流ネットワークを構築し、飛躍的に発展しつつある加速器科学のリーダーシップを担う人材を育成し、地球規模の諸問題の解決に資する。同時にその国際的な教育環境を活用し、日本人学生の国際的な通用性の向上を図る。

○ 内容及び特色

(1) 国際競争力の強化が期待されるプログラムである点：

- ・ 国際的な研究機関の研究現場における博士後期課程の教育を施す。
- ・ 英語での会議やセミナーが頻繁に開催される環境にあり、これらに学生を積極的に参加させる。
- ・ 高エネルギー加速器科学研究科3専攻において実施される本分野の最先端研究へ参加する事により加速器科学全般に対する広い視野と専門知識の深い理解を育む。

(2) 人的ネットワークの形成に有効である点：

- ・ 本研究科の基盤機関は高エネルギー加速器科学の国際的な研究拠点であり、基盤機関を利用する諸外国の多数の研究者によるコミュニティーがすでに存在しており、本留学生による人的ネットワーク形成の基盤となる支援母体を形成している。
- ・ 基盤機関は、外国人客員教授・研究員の制度により、外国の一流の研究者を招聘し共同研究を実施しており、留学生はこれらの外国人研究者と直接研究・教育上の交流を図ることができる。
- ・ 本学は全学としてJSPSと共催したサマープログラムを実施してきているが、この事業に本留学生も参加することとする。この事業は欧米主要国の博士号取得前後の研究者を、夏期2ヶ月間、我が国に招致し、我が国の文化（日本語を含む）や研究システムに関するオリエンテーションと日本側受入研究者の下での研究機会を提供するものであり、先進5カ国の研究機関のフェローとともに研究を行うなど、グローバルネットワークを広げることが可能である。
- ・ これらのネットワークを通して修了生の進路探しを手伝うほか、総合研究大学院大学の国際シンポジウムなどで修了生を「里帰り」させ、在学生との交流を深め、在学生が卒業後の進路についての情報を得られるようにする。

(3) 留学生に配慮したプログラムである点：

- ・ 高エネルギー加速器研究機構は国際的レベルの研究機関であり、世界的な活躍をする研究者を多く有していることから、英語を日常語としている者も多く存在している。外国人留学生受入れに際し、研究及び語学面においてもプロのサポートが期待できる。
また、日本人学生や研究員などをチューターとして配置し、研究面及び生活面においてサポートすることとしている。
- ・ 基盤機関には、放射光装置、スーパーコンピューター、電子・陽電子非対称衝突型加速器など、いずれも世界最先端の研究装置が設置されており、留学生はこれらを見ずから使用して最先端の研究をすることができる。
- ・ 外国人を専門に世話をする国際支援室やスタッフが、基盤機関に採用されており、生活面での支援を受けられるシステムが整備されている。

(4) 大学の国際化の促進に繋がるプログラムである点：

- ・ 総合研究大学院大学では、総研大国際シンポジウム「アジア地域における学術文化交流ネットワーク」（平成17年1月20-23日開催、場所：葉山）など年2-3回、大学主催の国際会議を国内や国外で開催しており、留学生がこの国際会議において積極的に討論を行うことや運営委員として主体的に参加することを通して、大学の国際化促進に寄与するとともに、留学生自身の人的ネットワーク作りを行う。
- ・ 素粒子原子核専攻・加速器科学専攻は、天文科学専攻と共同で「Asian School of Particles, Strings and Cosmology」を18年度から実施する予定である。国内のみならず中国、韓国、インドの他東南アジアからの大学院生・ポスドクを対象とし、高エネルギー加速器科学及び物理学に深く関連する宇宙物理を含めた飛躍的に発展しつつある学際的分野を担う人材の育成を図る。留学生をこれに参加させることにより、総研大の国際化および人的ネットワーク構築を促進する。

- ・私費留学生も本プログラムに参加するが、RA経費（80万円／年程度）のほか、各種の民間奨学金を斡旋することにより、私費留学生を経済的に支援し、国費留学生との差がなるべく開かないよう努力する。

○ 教育・指導体制

- ・主任指導教員を中心とした論文指導に加え、専攻の教員集団による指導や支援体制が確立されている。
- ・英語によるセミナーやプレゼンテーション方法指導、研究所内の日本語講座および地域ボランティアによる日本語講座・日本文化の紹介などきめ細かな指導を実施している。
- ・基盤機関にいる一線で活躍する研究者と身近に接することにより、研究に対する心構えや方法などが自然と身に付くことも期待される。

○ 使用言語

- ・日常生活では日本語または英語が主である。グループのミーティング等はメンバーに外国人がいる場合は主として英語で行われる。

○ 募集方法、募集対象国、学内選考方法等

- ・HPや開発中のWebELSを活用するとともに、海外総研大レクチャーをマッチングとして利用し、教員と学生との出会いの機会の促進を図る。
- ・募集対象について特別に国については問わないが、日本と近い地域としてのアジア諸国の学生を歓迎する。
- ・具体の選考方法としては、各専攻からの推薦を受け、専攻長会議において審議・調整・決定まで一貫して行う。

○ 修了後に想定される進路、修了者に期待できる効果及びフォローアップ体制

- ・入学時から母国での就職もしくは日本での就職等の可能性を明確化し、個々の留学生の能力及び国の情勢を考慮し、進路を明確にした上で指導分野を決定。アジア地域の修了者を中心とした学術文化交流ネットワークを構築。そのため、修了者の追跡調査を継続し、大学との情報交換を行うとともに定期的に修了生を「里帰り」させ、講演会や意見交換会を実施する。

○ 本プログラムの点検・評価の体制

- ・留学生の学位授与率の把握、修了生の就職先と職位の把握、インターネットを活用したアンケート調査の実施などを定期的、定量的に把握するだけでなく、修了生を含む外部委員会による評価を行い、定性的な面も考慮する。

○ その他特記事項

- ・本学は、葉山本部と各基盤機関にキャンパスが分散しており、国際的な研究機関の研究現場における博士課程の教育と基盤機関の枠を超えた全学的な教育プログラムを備えている。研究科を超え、分野も異なる研究者及び学生との交流を通じて世界レベルの留学生交流が可能となると言う点に本学の特色がある。